

2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
鹿児島大学

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立大学法人鹿児島大学	特別支援学校	知的障害	かごしまだいがくきょういくながふふぞくとくべつしんがっこう 鹿児島大学教育学部附属特別支援学校

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成 31 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年次までの取組の成果と課題の整理 ・ 教育課程の現状と課題の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間指導計画, 個別の指導計画から授業づくりまでのプロセスの評価 ・ 授業レベルまで具体化を図った本校の児童生徒に育てたい資質・能力 ・ 様々な教科等で年間指導計画を作成し, 2 年次に作成した様式を評価
令和元年 5 月～6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学部で目指す姿」, 「授業で目指す姿」を, 各学部の経営案等から再整理 ・ 第 1 回カリキュラム・マネジメント推進委員会の実施 	
令和元年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度実践する教科等の選択, 調整 ・ 新学習指導要領を踏まえた年間指導計画の作成 (~9 月) ・ 個別の指導計画運用に関する検討 ・ 情報収集(全国特別支援学校長研究大会) 	
令和元年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践発表(第 64 回九附連特別支援教育部会) ・ 第 2 回カリキュラム・マネジメント推進委員会の実施 ・ 2 学期に実践する単元(題材)の年間指導計画及び単元(題材)指導計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元(題材)指導計画作成要領の確認 ・ 年間指導計画等から授業づくりまでのプロセスの評価

令和元年 9月 ～12月	<ul style="list-style-type: none"> 作成した年間指導計画を基にした授業実践 授業で目指す姿を根拠とした授業における資質・能力の評価 第3回, 第4回カリキュラム・マネジメント推進委員会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントに係る一連の取組に関する評価 資質・能力の評価に対する授業で目指す姿を設定することの有効性
令和元年 11月	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究会の実施 個別の指導計画の様式検討 校内研究会のまとめ 鹿大附特カリキュラム・マネジメントモデルの検討 学会発表(教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究集会) 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントに係る一連の取組に関する評価 資質・能力の育成の視点による児童生徒の学びと学習評価
令和元年 12月	<ul style="list-style-type: none"> 3年次の取組のまとめ(成果と課題の整理) 2学期に実施した単元等の評価 第5回カリキュラム・マネジメント推進委員会の実施 最終報告書執筆 情報収集等(教育課程研究協議会) 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントに係る一連の取組に関する評価 資質・能力の育成の視点による児童生徒の学びと学習評価 実践に基づく年間指導計画の評価
令和2年 1月	<ul style="list-style-type: none"> 鹿大附特カリキュラム・マネジメントモデルの作成 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントに係る一連の取組に関する評価 資質・能力の育成の視点による児童生徒の学びと学習評価 実践に基づく年間指導計画の評価
令和2年 2月	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省特別支援教育に関する実践研究充実事業研究報告会の実施 研究報告会のまとめ 第6回カリキュラム・マネジメント推進委員会の実施 情報収集等(大塚特別支援学校) 情報収集等(宇都宮教育大学附属特別支援学校) 	
令和2年 3月	<ul style="list-style-type: none"> 3学期に実施した単元等の評価作業 第7回カリキュラム・マネジメント推進委員会の実施 次年度の教育課程の検討, 確認 	<ul style="list-style-type: none"> 実践に基づく年間指導計画の評価

(2) 研究課題

児童生徒に育てたい資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメント実現に向けたカリキュラム・マネジメントモデルを示し、様々な教科等での実践によって、その有効性を確認する。

(3) 研究の概要

平成27年に本校が実践を通して整理した、「本校の児童生徒に育てたい資質・能力（以下、本校で育てたい資質・能力）」を育てる授業を実現するために、2年次までの取組を踏まえて、次に示す取組を行った。

- 1 2年次の研究で資質・能力を育む観点から様式や作成の手順を改めた年間指導計画や個別の指導計画、単元指導計画を用いて様々な教科等の授業づくりに取り組み、これらの指導計画を用いた授業づくりの有用性の確認を行った。
- 2 2年次までの研究で整理した、各学部の児童生徒が資質・能力を身に付け発揮している姿の更なる具体化を図り、「授業で目指す姿」を整理した。
- 3 授業で目指す姿を基に、実践する授業で「授業で目指す姿(資質・能力)」を設定し、授業における児童生徒の学びの姿を、日々の授業研究を通して評価したり、単元(題材)指導計画の評価に取り組んだりして、その有用性を確認した。
- 4 2年次までの研究で整理した学期末に実施する教科等反省の取組を継続して行い、単元の総括的評価を年間指導計画の評価につなげる取組の有用性を確認した。
- 5 教育課程の編成や実施、評価・改善に係る取組を組織的かつ継続的に行うために、既存の委員会に実践的リーダーを加え、カリキュラム・マネジメントに関する検討を計画的に行い、学校組織や教師集団の意識の変容を確認した。
- 6 視察研修等を通じた特別支援教育に係る最新の情報や他校の取組の収集、学会での研究発表や公開研究会の開催を通じた研究成果の発信及び参加者と議論を通して、実践の充実を図るとともに、研究に対する客観的な評価を得た。
- 7 本研究を通して見だし、整理してきたカリキュラム・マネジメントモデルを整理し、具体的な取組を示したリーフレットを作成した。

(4) 研究の成果

前述の(3) **研究の概要**に挙げた取組を通して、次に示す成果が得られた。以下、項目別に示す。

- 1 2年次の研究で有用性が確認された、各教科等を合わせた指導における年間指導計画や単元(題材)指導計画の様式について、国語、算数・数学、音楽、美術、保健体育といった教科別の指導において実践を行い、年間指導計画や単元(題材)指導計画の様式の有効性を確認することができた。それぞれの様式で各計画の作成を行った全職員へのアンケートからは、「細かな形式が示されたことで学習指導要領とも対応したものだということが分かり、実施、評価、改善へのつながりが分かりやすくなった。」、「学習指導要領に示されている教育の内容が年間指導計画に明記され、資質・能力も意識しながら授業を計画することができた。」、「単元題材がどのような資質・能力を、どのような方法で身に付けるようにするのかの道筋が大変分かりやすくなった。」、「授業計画シートを作成することで、題材を見通して生徒たちが何を学ぶのか、どのように学ぶのかが明確になり、教育内容をしっかりと押さえたかどうかの確認までしながら授業ができた。」、「題材計画シートを作成すること

は、実態差が大きい学習集団においても、段階に応じた教育内容を確認しながら授業実践することに有効であった。」など、それぞれの様式で「何を学ぶか」、「何ができるようになるか」、「どのように学ぶか」の三つの視点で整理した年間指導計画や単元（題材）指導計画の有効性を示唆する意見が挙げられた。

表1 学部で目指す姿・授業で目指す姿

	基礎・基本	主体性	思考・判断・表現	人間関係
本校	一人一人が各教科等の内容を身に付けること	一人一人が学習の主体者として、進んで学習活動等に取り組むこと	一人一人が、今やこれまでの学習で身に付けた力を適切に選択したり、組み合わせたりしながら思考、判断して、課題を解決し、それを自分なりの方法で表現すること	共に学ぶ仲間と適切に関わりながら学習活動に参加することや、学習活動を通して一人一人が身に付けている力を発揮し合いながら課題を解決したり、互いの力を更に高め合ったりすること
高等学校	各教科等の内容を身に付け、社会生活に必要な力を高める姿	将来の姿を見据え、自分の良さや課題を理解し、具体的な目標をもって生活しようとする姿	必要な情報を自ら活用したり、組み合わせたりして、社会生活の中で生かせる方法で自分の考えを伝える姿	社会生活の中で、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを取り入れたりしながら協働する姿
		今の自分に必要な事柄に興味・関心を広げたり、自分の課題に気付いて具体的な目標を設定したりして、身に付けたことを生かして学習に取り組む姿	自分も持っている知識や、情報機器等の道具を活用しながら得た新しい知識を生かして、自己選択・自己決定し、自分の考えや思いを伝えたり、表現したりする姿	集団の中で、自分らしさを発揮したり、周りの人に合わせたりしながら、役割を果たし、いろいろな人と協力し、学び合う姿
中学校	各教科等の内容を身に付け、集団生活に必要な力を高める姿	集団での自分の役割を理解し、身に付けた姿を生活や学習に生かそうとする姿	必要な情報を取捨選択し、集団の中で自分の考えを伝える姿	身近な集団の中で周囲の人と関わりながら協力したり、他者の考えに触れたりして互いの考えを認め合う姿
		自分のできることや、良さに気付き、自ら人や物、環境に働き掛けながら課題に取り組む姿	これまでの学習や生活経験を基に、自分なりに気付いて考えたり、判断したりしながら、表現を工夫して、集団の中で考えや思いを伝える姿	友達の意見を聞いたり、役割を担ったりしながら、学び合う楽しさを味わい、周囲の人と協力して活動に取り組む姿
小学校	各教科等の内容を身に付け、日常生活に必要な力を高める姿	できることを積み重ね、達成感を味わいながら、興味・関心の幅を広げ、身近な物や出来事に自分から関わろうとする姿	保有する諸感覚を活用しながら、自ら考え、判断し、教師や友達に必要な事柄や自分の思いを様々な方法を用いて伝える姿	集団生活の中で役割を發揮し、満足感や充実感を味わいながら、自分から人や物、環境に働き掛けながら、やりとりする姿
		興味・関心のある教材・教具を操作し、課題に取り組む姿	教材・教具の操作を通してできたことを実感し、できたことを教師や友達に表情や身振り、言葉などで伝える姿	設定された環境の中で共に活動する楽しさを味わい、教師や友達への興味・関心を高めながら、物や課題などを通してやりとりする姿

2 2年次の研究で、育成を目指す資質・能力の評価を行うことが難しかったことから、各学部の児童生徒が資質・能力を身に付け発揮している姿の更なる具体化を図り、「授業で目指す姿」を整理することにした。整理する方法としては、各学部の学部経営案を読み、本校の児童生徒に育てたい資質・能力である「基礎・基本」、「主体性」、「思考・判断・表現」、「人間関係」に関する記述を色分けしたり、付箋紙に書き出したりして、「授業で目指す姿」として、学部で目指す姿をより具体的に整理するようにした。整理したものを表1に示す。

3 日々の授業において、資質・能力の育ちを多面的に捉えるために、2で整理した授業で目指す姿を基に、「授業で目指す姿(資質・能力)」を設定した。設定した学習活動に応じて資質・能力を身に付け発揮している姿を具体的に設定することで、児童生徒の学びの姿から資質・能力の評価をできるようになってきた。実践を行った教師からは、「授業で目指す姿が設定されたことで、学部で目指す姿からはイメージしにくかった資質・能力を發揮している姿が具体的に設定しやすくなり、それに比例して、育ちも多面的に捉えられるようになったと思う。」「毎時間、資質・能力を限定して設定することで、その設定した資質・能力について深く考えることができた。また、そのことについてサブ・ティーチャーと授業ミーティングをすることによって資質・能力の捉えを共通理解することができ、授業ミーティングで出た反省点を次時の授業に生かせていたと思う。」といった授業で目指す姿(資質・能力)を設定することの有効性を示唆する意見が挙げられた。また、この取組によって、日々の授業研究において、学びの姿を分析する際、これまでよりも資質・能力に視点を置いた分析を行うことができるようになった。

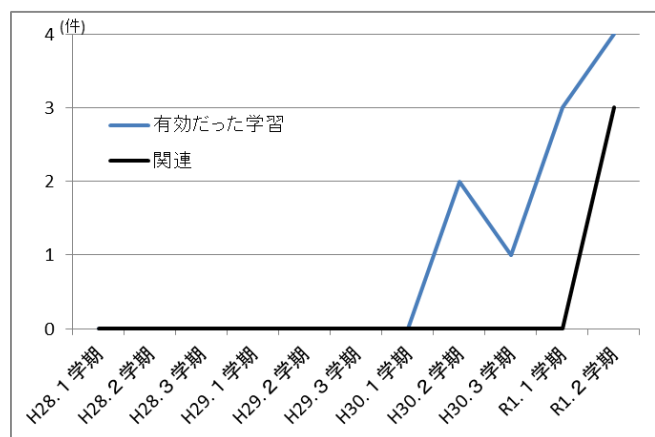


図1 教科等反省における教育課程に関する内容別推移

4 2年次までの研究で整理した授業反省用紙を用いて行った、教育課程を評価する取組では、様々な教科等で実践を行ったことで、教育課程の評価・改善につながる多くの検討を行うことができた。各学部や各教科等部での検討を受けて、学校全体の職員会議で示された教育課程に関する内容の推移を図1に示す。

授業実践から意識的に各教科等との関連を話題にして検討を行うことで、これまで意図していなかった関連や有効だった学習活動を見いだすことができた結果と考える。

5 本研究でカリキュラム・マネジメントの取組を行う中で、カリキュラムを子どもの学びから主体的に創造することやそれができる教師の成長の重要性を実感してきた。そこで、実践を行った教師の教育課程やカリキュラムに関する考え方の変化について、自由記述によるアンケートを行った。回答を行った全ての教師が考え方の変化を実感していた。回答の一部を以下に示す。

視野の広がりを実感している意見として、「以前は個に応じた手立てや学習活動が先行し、カリキュラム・マネジメントに対して関わっている実感やよりよく変えていく意識は高くなかったが、次年度へ取組をつないでいく視点や育みたい姿についての視点での授業づくり、評価を考えるようになった。」、「以前は、指導の改善は、題材間のみでとどまっていたが、年間指導計画を基にして、次年度以降にも改善をつなげるように意識するようになった。」といった意見が挙げられた。学校における教師の役割意識の変化を実感している意見として、「学校教育目標を基とする教育課程に対して、学校という組織全体で改善を図っていくものだという意識をもつことができるようになったと思う。」、「教育課程は難しい、敬遠したいというイメージだった。今も難しいが、自分もカリキュラム・マネジメントに関わっているのだと感じるようになった。」、「全職員が教育課程やカリキュラム開発に意識を向けることができている。」、「教育課程が大変身近に感じられるようになったと思う。特別支援学校の場合は、個別の指導計画を作成するため、個人に寄り添い過ぎた単元（題材）になることがあったが、実施する単元（題材）が教育課程上でどのような位置付けなのか、何を目的に設定されているのかを意識して、計画を立てたり、評価をしたりすることができるようになったと思う。」といった意見が挙げられた。

6 本研究の取組については、九附連特別支援教育部会や教大協合同研究集会において実践発表等を行い、研究成果の発信を行った。参加者との議論を通して、実践の充実を図るとともに、研究に対する客観的な評価を得ることができた。その他、全国の様々な公開研究会等に参加し、各学校のカリキュラム・マネジメントや主体的、対話的で深い学びを目指した授業づくりに関する情報収集を行うことができた。

7 本研究の目的であったカリキュラム・マネジメントモデルを、これまでの研究成果を基に、三つのPDCAサイクルを用いて全体像を示すとともに、各サイクルで有効だった取組を、カリキュラム・マネジメントの流れに沿って整理し、「鹿大附特カリキュラム・マネジメントモデル」としてまとめたリーフレットを作成した(図2, 3, 4)。作成したリーフレットは、最終報告会の参加者に配布するとともに、各学校のカリキュラム・マネジメントの取組や学校研究等に活用できるよう、県内の特別支援学校や全国の附属特別支援学校へ送付し、本研究を通して見いだしたカリキュラム・マネジメントモデルを広く発信することができた。

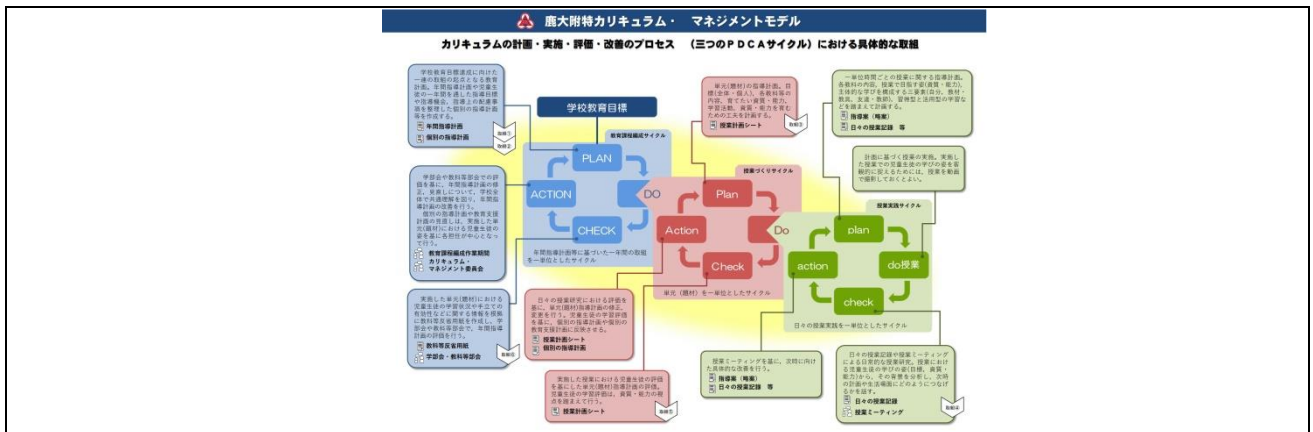


図2 鹿大附特カリキュラム・マネジメントモデル全体像

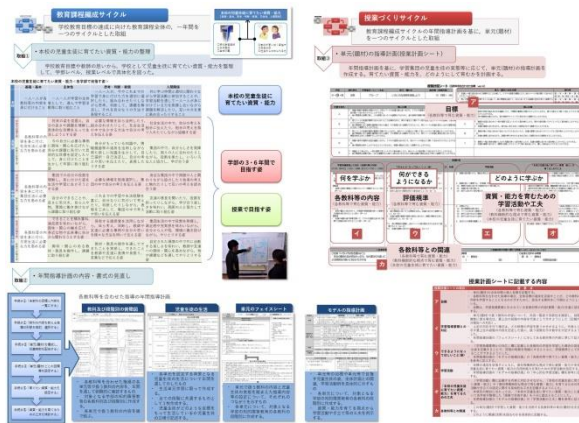


図3 具体的な取組①



図4 具体的な取組②

(5) 課題と今後の方策

本研究において、教科等横断的な視点で各教科等との関連を明らかにしながら実践に取り組んだ。しかし、単元（題材）で育成を目指す資質・能力が多いために、どの資質・能力を関連させると良いのかを授業計画シートに記述することが難しかった。これは、カリキュラム・マネジメントの取組として授業を計画する際に考慮すべき資質・能力が、各教科等の内容としての知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう姿・人間性等の三つの資質・能力だけでなく、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力、そして、学校として育成を目指す資質・能力と多岐に渡ることが理由として考えられる。また、これらを関連させて指導していくことの難しさや関連の優先度が不明確であることなどの課題も明らかになった。全ての資質・能力を教科等横断的に関連させていくことは難しいが、教科等横断的な視点で育成を目指す資質・能力を学校全体で焦点化し、カリキュラム・マネジメントの取組の中に位置付けていくことが求められる。